

# 朝鮮語における話しことば形に関する予備調査(1)

平 香織  
神田外語大学

## 1. はじめに

朝鮮語には、書きことばと話しことばが別の形で存在するものがある。例えば、書きことば形の-와/-과に対して、-하고<sup>1)</sup>や-랑/-이랑、-에게、-에게서に対して-한테、-한테서などがそれである。しかし、書きことば形と話しことば形がいつも明確に分けられるとは限らない。そのため、韓国語学習者にとっては、何が書きことば形で何が話しことば形であるかという判断が難しく、特に、辞書や文法書に記載のない話しことば形を学習するのは容易ではない。

そこで本稿では、シナリオ資料<sup>2)</sup>を用いて、書きことば形とは異なる形で現れた語彙を取り出し、その形が辞書に記載されているかを調べた。そして、書きことば形と異なる形がどのような規則で形作られているかによって分類した。なお、本稿では書きことば形と異なる形を「話しことば形」として見なして論を進めるが、書きことば形と異なる形を話しことば形として一括りにしてよいかという点は疑問がある。この点は、今後調査を進めていくことによって明らかにされるであろう。今回は、語尾が関わることで話しことば形を形成するもの(例:놓은→논)はできるだけ除外した。語尾が関わるものについては稿を改めて述べることにする。

## 2. 先行研究

書きことばと話しことばの違いに着目した研究は、これまで様々な形で行われてきた。一例として、書きことばと話しことばの規則性を記述した研究(노대규 1996)や話しことばで使用される語尾の頻度について考察した研究(권재일 2004, 박석준·남길임·서상규 2005)、話しことばを対象とした大学生の語彙使用の特性を調査した研究(임소영·서상규 2005)などがある。このうち노대규(1996)は、「一般的特性」、「語彙意味論的特性」、「文章意味論的特性」、「統語論的特性」、「音韻論的特性」という観点から書きことばと話しことばの違いを記述している。

ㄱ. 넌 내 [맘/마음]에 안 들어.

「お前は気に入らない。」

ㄴ. [마음/\*맘]이 병이 들면 몸도 병이 드는 법이다. (노대규 1996:258)

「心が病気になると身体も病気になるものだ。」

上の例で노대규(1996)は、話しことばでは맘, 마음の両方が使用できるが、書きことばとなると맘は不自然であるとしている。そして、마음이맘となるものを「音韻論的特性」の母音省略と「語彙意味論的特性」の縮約語として扱っている。

마음이맘になる過程から分かるように、話しことば形は省略や脱落、融合などの規則が重なって形作られる場合がある。本稿では、このように規則が重なる場合、最初に起こる規則を基に分類した。맘を例にとると、母音省略が起きた後、縮約が起きるので、母音省略として分類するということである。

### 3. 分類

話しことば形を取り出すために使用したシナリオは、『그들이 사는 세상』, 『마라톤』, 『신의 저울』の3本である。抽出した話しことば形の記載可否を確認するのに使用した辞書は、『표준국어대사전』(電子版), 『연세 한국어사전』, 『朝鮮語辞典(小学館)』である。

まず、シナリオ資料から書きことば形と異なる語彙を抽出した。次に、上記の辞書にその形態が記載されているか否かによってそれらを分けた。この時、上記の辞書のうち1冊にでも記載があれば「辞書に記載があるもの」として分類した。そして、抽出した語彙を書きことば形と比較し、どのような規則によって形作られているかを観察し、分類した。今回、規則としてあげることができたのは「母音の脱落によるもの」、「ㅇが脱落し、融合したもの」、「子音ㄱが脱落し、融合したもの」、「ㅎの脱落によるもの」、「終声入の脱落によるもの」、「母音の変化によるもの」、「母音の融合によるもの」である。規則性が見出せないものは「その他」に分類した。なお、辞書に記載のない形は、書きことば形が不明なため、韓国語母語話者の協力を得て、書きことば形を書き入れた。

以下、話しことば形、書きことば形、辞書の記載可否、用例の順に示すことにする。辞書の記載可否を示す際、『표준국어대사전』は국、『연세 한국어사전』は연、『朝鮮語辞典(小学館)』は小と記すことにする。辞書に記載のあるものは、その一覧を本稿末尾に付した。

#### 3.1 辞書に記載があるもの

##### 母音の脱落によるもの

母音の脱落によるものの中でも脱落する母音によって、さらにいくつかに分けることができる。(1)から(5)は이가脱落し、融合したものである。

##### (1) 넬 (내일)

辞書—국, 연, 小: 내일의縮約形

- a. 넬 다시 올게. (그:46)<sup>3)</sup> 「明日また来るね。」
- b. 준기 씨가 우리 불라고 오는 것도 아닌데, 차라리 약속을 넬로 미뤄, 기집애야. (그:19)  
「チュンギさんがわたしたちに会いに来るわけでもないのに,むしろ約束を明日に延ばしなさいよ, あんた。」

(1b)のように助詞-로가後続した形でも現れる。他の助詞-이, -에などが後続した形は今回の資料では見られなかった。

(2) 어딴다 (어디 있다), 저깃다 (저기 있다)

辞書-국:なし, 연:なし, 小:어딴- 어디 있-の縮約形

- a. 어딴어요...? (신:66) 「どこにいますか...?」
- b. 저깃어! 찾았어, 엄마! (마:207) 「あそこにいる!見つけた, 母さん!」

(3) 재밌다 (재미있다)

辞書-국:재미있다の縮約形, 연:なし, 小:なし

- a. 그게 그렇게 재밌어? 어디, 나두 좀 보자. (그:33)  
「それがそんなに面白いの? どれ, 私にもちょっと見せて。」

(4) 쥬 (제일)

辞書-국, 연, 小:제일의縮約形

- a. 경현 또 어떻게? 행정법 과락일 거라고 대성통곡 했는데 행정법 점수가 쥬 높았대잖아! (신:17)  
「キョンヒはどうよ? 行政法が落第だと大きな声で泣き叫んでいたのに, 行政法の点数が一番高かったって言っていたじゃない!」
- b. 우리 반에서 쥬 잘생겼었거든요. (마:178)  
「うちのクラスで一番かっこよかったんです。」

(5) 쥬 (주인)

辞書-국, 연, 小:주인의縮約形

- a. 옥탑방 쥬 여자가 봤대! (신:63)  
「屋上部屋の女主人が見たって!」

次の(6)は | が脱落し, 融合した形である。

(6) 울 (우리)

辞書-국, 연, 小: 우리의縮約形

- a. 올 엄마, 속상하실까 봐 그게 스트레스죠. (신:22)

「母さんが悲しむかと思って,それがストレスです。」

- b. 아우 올 아빠, 또 발동 걸리셨네, 발동 걸리셨어! (신:85)

「ああ,お父さん,またエンジンかかっちゃったわ,エンジンかかっちゃった!」

今回の資料では(6a),(6b)のように属格の用例のみ観察された。属格以外でも縮約形が使用されるかは今後,調査しなければならない。

次の(7)から(9)は으의脱落によるものである。

(7) 담 (다음)

辞書-국, 연, 小: 다음의縮約形

- a. 나 정말 연기 잘해요... 진잔데... 담에 또 빼요. (그:56)

「わたし本当に演技が上手なんです...本当なのに...また今度お目にかかります。」

- b. 나 담주부터 출근인 거 알지? (그:42)

「わたし,来週から出勤だってこと知っているよね?」

(8) 맘 (마음)

辞書-국, 연, 小: 마음의縮約形

- a. A: 이젠 코치 따위 필요 없어요. (초원 손을 잡아끈다) 가자.

「もうコーチなんか必要ありません。(チョウウォンの手を引っ張る)帰ろう。」

- B: 누구 맘대로? (마:190)

「誰の勝手に?(何を勝手に?)」

- b. 맘에 안 들게 보면 (그:40)

気に入らない様子で見ると

今回の資料では,(8b)のようにト書き部分にも맘が使用されていた。

(9) 침 (처음)

辞書-국, 연, 小: 처음의縮約形

- a. 침부터 알았잖아, 우리가 안 맞는 거. (그:53)

「はじめから分かっていたじゃない,わたしたちが合わないこと。」

침が처음の縮約形という記述は各辞書とも同じであったが、『연세 한국어 사전』は처음, 침ともに名詞と副詞に分けて記載し, 名詞として使用される 침に「主に話しことばで使用される」と記述している。

次の(10),(11)は우の脱落によるものである。(10)は우が脱落し, 終声口が融合した形であり, (11)は終声がないため単に우が脱落した形となっている。

#### (10) 싸 (싸움)

辞書—국, 연, 小: 싸움の縮約形

- a. 전생애 싸하다 죽은 귀신이 붙었나. (그:16)

「前世で戦って死んだ鬼がついているのかな。」

- b. 섬 떨어졌다고 고삐기도 안 비치다가 싸질을 했다나 어쨌다나. (신:63)

「試験に落ちたといって顔も見せなかったのに, (いきなり)帰ってきて喧嘩をしたとかなんとか。」

『표준국어대사전』, 『朝鮮語辞典』では(10b)의 싸질も싸움질의縮約形として見出し語にあげている。『연세 한국어사전』では싸질을見出し語にあげておらず, 싸움질의備考欄に縮約形と記している。

#### (11) 외다 (외우다)

辞書—국, 연, 小: 외우다の縮約形

- a. 전화번호를 여태 외고 있더라구요. (마:177)

「電話番号を今まで覚えていたんです。」

次の(12)は어가脱落した形である。

#### (12) 들오다 (들어오다)

辞書—국, 연, 小: 들어오다の縮約形

- a. 섬 떨어졌다고 고삐기도 안 비치다가 들와서 싸질을 했다나 어쨌다나. (신:63)

「試験に落ちたといって顔も見せなかったのに, (いきなり)帰ってきて喧嘩をしたとかなんとか。」

- b. 내가 ... 일찍... 좀만 일찍 좀만 더... 일찍 들왔더라면... (신:66)

「俺が... 早く... 少しでも早くもう少しだけ... 早く帰ってきていたら...」

いづれの辞書も들가다という形は記載がない。

ㅇが脱落し, 融合したもの

次の(13)から(15)は子音ㅇが脱落し, 母音が前の文字と融合した形である。

(13) 뒤 (두어)

辞書-국: 두어의縮約形, 연: なし, 小: 두어의縮約形

- a. 이차저차 뒤 시간이 지나서 와 보니 면이 완전 굳었더라구. (신:27)  
「なんだかんだで 2 時間ほど過ぎて戻って見たら, 麵が完全に固まっていたんだよ。」

(14) 봐다 (보이다)

辞書-국, 연, 小: 보이다の縮約形

- a. 못 봤어요. 봐지도 않았어요. 그 핸드폰은! (신:63)  
「見ていません。見えもしませんでした。そんな携帯なんて!」  
b. 나 이래 봐도 내 고향 전주에선 야시장 깡패로 불렸어! (신:28)  
「俺はこう見えても故郷の全州では夜市のやくざと呼ばれていたんだぞ!」

(15) 애 (아이)

辞書-국, 연, 小: 아이の縮約形

- a. 십오 년을 그렇게 애를 다그쳤어. (마:203)  
「15 年もそうやって子供を急き立ててきたの。」  
b. 애들이 점순이라고 놀려서 세연이 울었어요. (마:178)  
「子供たちがほくろちゃんとからかってセヨンが泣きました。」  
c. 형사님, 우리 애, 우리 애, 그럴 애가 아니에요! (신:80)  
「刑事さん, うちの子は, うちの子は, そんな子ではありません!」

(15c)のように助詞の縮約も同時に現れ得る。

子音ㅍが脱落し, 融合したもの

ㅍが脱落することで, 母音が前の文字と融合した形である。

(16) 외려 (오히려)

辞書-국: 오히려の縮約形, 연: 見出し語なし(오히려の備考欄に縮約形として), 小: 오히려の縮約形

- a. 외려 더 잘된답니다. (신:74)  
「むしろうまくいくそうです。」

『연세 한국어사전』では외려を見出し語にはあげておらず, 오히려の備考欄に縮約形として記している。

하の脱落によるもの

(17) 왜냐면 (왜냐하면)

辞書-국: なし, 연: 왜냐하면の縮約形, 小: 왜냐(하)면として記載

- a. 말 안 하고 싶다, 왜냐면, 넌 좋은 친구거든. (그:52)

「言いたくない, 何でかって, おまえはいい友達だから。」

終声入の脱落によるもの

(18) 무어 (무엇), 뭐 (무어)

辞書-무어 국: 무어=무엇, 연: 무엇の縮約形, 小: 무엇の縮約形

뭐 국, 연, 小: 무어의縮約形

- a. 마라톤이 뭐, 죽어라 뛰면 되는 줄 알아요? (마:171)

「マラソンなんて, 死に物狂いで走ればどうにかなると思っていますか。」

- b. 이왕 이렇게 세상에 태어난 이상, 뭐 하나라도 즐길 수 있는 거, 살아 있다는 기분 느낄 수 있는 거 하나쯤 엄마가 만들어 주고 떠나자.

(마:202)

「せっかくこうやって生まれてきた以上, 何か一つでも楽しめること, 生きているという気分を味わえること一つぐらいは母さんが作ってあげてから去ろう。」

(18a)は感嘆詞の例, (18b)は代名詞の例である。いずれも무엇の縮約形である무어からさらに縮約された形である뭐として現れている。

(19) 거 (것)

辞書-국: 依存名詞 것の口語的な言い方, 代名詞 거기의口語的な言い方, 代名詞 그것の縮約形

연, 小: 依存名詞 것の縮約形, 代名詞 거기의縮約形, 代名詞 그것の縮約形

- a. 왜 일이면 일 가지고 말하지, 사적인 거까지 들춰내서 사람 속을 뒤집어? (그:41)

「仕事なら仕事のことだけで話せばいいじゃない, 何で私的なことまで暴いて人の気持ちを乱すんだ?」

- b. (문득 비서를 돌아보며) 거 도시락 어디 거야? (신:72)

「(ふと秘書のほうを振り返って)その弁当, どのの?」

(20) 이거 (이것), 그거 (그것), 저거 (저것)

辞書-국: 이것의口語的な言い方, 연: 이것의縮約形, 小: 이것の縮約形  
국:그것의口語的な言い方, 연:話しことばで그것の意味, 小: 그것の縮約形  
국:저것의口語的な言い方, 연: 저것의縮約形, 小: 저것の縮約形

a. 이거 드리려고 왔어요. (마:170)

「これを差し上げようと思って来ました。」

b. 하... 100 바퀴를 채우겠다구?... 저거 진짜 로봇트네? (마:182)

「100周走るって?あれは本当にロボットだな。」

c. 이거보다 빠르게 뛰면 돼, 안 돼? (마:184)

「これより早く走っていいの, だめなの?」

『朝鮮語の入門 改訂版』では「子音ではじまる語尾の前では것は書き言葉も話し言葉も同じ」(p.106)だとして, 이것도, 이것만을あげている。今回の資料では(19a),(20c)のように子音で始まる助詞-까지, -보다が後続している場合にも거の形で現れている。辞書の記載に関して言えば, 『연세 한국어사전』では, 그거についてのみ「話しことば」という記述が見られる。

母音の変化によるもの

• ㅏ → ㅓ

(21) 맨날 (만날)

辞書-국: =만날, 연: =날마다, 類義語として매일, 小: 俗語, 類義語として만날

a. 맨날 특하면 써먹는 게 누군데... (마:165)

「毎日のように何かあるとすぐに利用しているのは誰だよ...」

• ㅓ → ㅣ

(22) 개기다 (개개다)

辞書-국: → ㉠개개다, 연: なし, 小: 개개다あり・개기다なし

a. ...방송 삼등분해서 나눠 나갔다고, 시말서는 젠장. 야, 정지오, 못 쓴다고 개겨, 임마?! (그:33)

「放送を3分割にして流したからって, 始末書なんて, ちくしょう。おい, チョンジオ, 書けないってごねろよ。」

• ㅓ → ㅕ

(23) 에미 (어미)

辞書-국: →어미, 연: 類義語として어미, 小: =어미



- a. 어차피 에미가 손 못 놓는 자식... 서로 편하게나 살아야죠. (마:204)  
「どうせ母親が手放すことのできない子供...お互いに楽に生きないと。」

• ㄱ → 一

(24) 드럽다 (더럽다)

辞書-국:なし, 연: 더럽다의誤り, 小:なし

- a. A: 너 나 이용하지? 내 콘티 그만 베껴.  
「おまえ,俺を利用しているだろ?もう俺の台本,盗むのやめろ。」  
B: 드럽다, 말어라. (그:57)  
「せこい,やめればいいでしょ。」

• ㄱ → ㅌ

(25) 지 (제)

辞書-국: →제, 연: i) 代名詞 若干俗っぽい話しことばで 자기의意味, ii) 제의話しことば, 小: =제

- a. 형사님! 이놈 얘기 귀담아 듣지 마세요. 그저 불뚝불뚝, 지 형이 말도 안 된 상황이니까. (신:81)  
「刑事さん!こいつの話は耳に留めないでください。ただ,かっとして,自分の兄が大変な状況だから。」  
b. 뭐든... 지 멋대로 해야 직성이 풀리지, 뭐든! (그:37)  
「何でも,自分の思い通りにしないと気がすまないんだろ,何でも!」

• ㄱ → ㅌ

(26) 기집애 (계집아이)

辞書-국:なし, 연: 계집애의誤り, 小:なし

- a. 주준영 저게... 아, 무슨 기집애가 그렇게 고집이... (그:28)  
「チュジュニョンあいつ... ああ,何だって,女があんなに気が...」

(27) 이쁘다 (예쁘다)

辞書-국: →예쁘다, 연: 예쁘다의誤り, 小: =예쁘다

- a. 형, 연수원에도 이쁜 여자들 많을까요? (신:47)  
「先輩,研修院にもきれいな女性が多いですかね?」

• ㄱ → ㅌ

(28) 그래두 (그래도)

辞書-국:なし, 연:なし, 小: 두의欄に그래두(그래도의口語体)

- a. 그래두 혹시나 해서 옥탑방까지 올라가서 살살이 뒤졌어. (신:77)  
「でももしかしたらと思って, 屋上部屋に上がってくまなく探したんだ。」

(29) 그리구 (그리고)

辞書-국: なし, 연: なし, 小: =그리고

- a. 그리구, 왜 형한테 쓸데없이 겁을 주니? (마:164)  
「それに, 何で意味もなく兄さんを怖がらせるの?」

(30) -두 (-도)

辞書-국: →도, 연: 助詞도의話しことば, 小: 도의口語体

- a. ... 그러니까, 얘기해. 나두 좀 들어보자. (그:41)  
「...だから, 話して。わたしも聞きたい。」  
b. 어제두 형 때문에 대낮부터 술 마셨잖아. (신:17)  
「昨日も先輩のせいで真昼間から酒を飲んだじゃない。」  
c. 아, 떨어져 봐야 불기두 하는 거지. (신:61)  
「ああ, 落ちてこそ受かりもするんだよ。」

(31) -루/-으루 (-로/-으로)

辞書-국: なし, 연: なし, 小: 로의口語体

- a. 오빠 내 가방 절대, 절대루 열어 봄 안 돼요, 알았죠? (신:16)  
「先輩, 私のかばん, 絶対, 絶対に開けたらだめですよ, いいですね?」  
b. 나, 아침밥 먹고, 아, 진짜 챙겨 먹었어 진짜루! (신:79)  
「朝ごはん食べて, ああ, 本当, ちゃんと食べたよ, 本当に!」  
c. 참, 그 옥탑방 알지? 오늘 그리루 이사했어! (신:51)  
「そうだ, あの屋上部屋知っているでしょ? 今日, そっちに引っ越した!」  
d. 고시원 쪽방으로 가지 말고, 옥탑방으루 직접 와, 알았지? (신:51)  
「考試院の小さな部屋に行かないで, 直接, 屋上部屋に来て, 分かった?」

(32) 바루 (바로)

辞書-국: →바로, 연: 바로の誤り, 小: =바로

- a. 아까 문자 왔을 때 바루 전화할걸! (신:73)  
「さっきメール来た時, すぐに電話すればよかった!」

(33) -라두 (-라도)

辞書-국: なし, 연: なし, 小: 두の欄に-라두(-라도の口語体)

- a. 전화라두, 전화라두 한 통만요, 제발 한 통만. (신:99)  
「電話だけでも, 電話だけでも一度だけ, どうか一度だけ。」

• ㄱ → ㅌ

(34) 방귀 (방귀)

辞書-국: 강원, 경기, 경남, 전남, 충청, 평안の方言, 연: 방귀の誤り,  
小: =방귀

- a. 요즘은 밥 먹다 방구는 안 끼데 ㄱ? (마:165)  
「最近は食事中におならはしないんだね?」

• ㅣ → ㅌ

(35) 부비다 (비비다)

辞書-국: →비비다, 연: 비비다の誤り, 小: なし

- a. 한 손으론 얼굴을 부비며, 숨을 고르면서도 빠르게 말을 하는...  
片手で顔をこすりながら, 呼吸を整えながらも早口で話す... (그:18)

(35a)はト書きで使用された例である。

母音の融合によるもの

(36) 아냐 (아니야)

辞書-국: 感嘆詞아니야の縮約形, 연: 感嘆詞아니야の縮約形,  
小: i) 感嘆詞아니야の縮約形 ii) 아니다の略待아니야の縮約形

- a. 아냐 아냐, 그 남자가 날 스쳐간 직후에도 그 여잔 살아 있었어!  
「いや, その男が俺とすれ違った直後もあの女性は生きていた!」 (신:76)  
b. 친해지기는 쉽지! 하지만 그게 전부는 아냐! (마:191)  
「親しくなるのは簡単よ! だけどそれが全てではないのよ!」

感嘆詞のみの縮約形を認めるか, 指定詞の縮約形も認めるかで辞書の記述が異なる。実際の例では(36b)のように指定詞も縮約形で現れている。

(37) 아뇨 (아니요)

辞書-국: 아니요の縮約形, 연: なし, 小: 아니요の縮約形

- a. A: 하지만 초원이는 남들하고 다르지 않습니까?  
「しかしチョウォンは他の子と違うじゃないですか。」  
B: 아뇨. 똑같아요. 달릴 때만큼은... (마:194)  
「いいえ, まったく同じです。走っている時は...」

その他

(38) 그깟 (그까짓)

辞書一 국, 연, 小: 그까짓の縮約形

a. 그깟 200 시간으로 뭐가 달라졌을 거 같아요? (마:204)

「たかだか 200 時間で何か変わったようですか。」

(39) 그만 (그따위)

辞書一 국: 그따위의話しことば的な言い方, 연: なし, 小: なし

a. 예전에 초원이가 마라톤 좋아한다고 했을 때, 내가 직접 달려 보지도 않고 그만 소리하지 말라고 한 거 기억나요? (마:204)

「前にチョウォンはマラソンが好きだと言った時,わたしが直接走ったこともないのにそんなことを言うなと言ったこと,覚えていますか。」

b. 우리 딸두 2 차 떨어졌거든? 우리 딸은 저 섬 떨어졌다구 남의 가게 유리창 깨고 간판 작살내구 그만 짓 안 해! (신:61)

「うちの娘も2次試験落ちたんだ。うちの娘は自分が試験に落ちたからって人の店のガラスを割ったり看板をめちゃくちゃにしたりそんなことはしない!」

그만을あげていたのは『표준국어대사전』だけであった。그따위には代名詞と冠形詞があるが,그만は冠形詞とだけ記されている。今回の資料でも冠形詞の例のみ確認できた。

(40) 관두다

辞書一 국: 고만두다の縮約形, 연: 그만두다の縮約形, 小: 고만두다の縮約形

a. 관두겠다고 했을 때... 관두라고 할걸... (신:95)

「やめると言った時...やめると言えばよかった...」

『표준국어대사전』と『朝鮮語辞典』では관두다を高만두다の縮約形として,간두다를그만두다の縮約形としている。それに対し,『연세 한국어사전』では,관두다를그만두다の縮約形とし,고만두다の縮約形については記載がない。고만두다가관두다になる場合,고만의口が脱落し,融合した形とも考えられるが,辞書によって記述が分かれたので今回は「その他」に分類した。

(41) 놔두다 (놓아두다)

辞書一 국: 놓아두다の縮約形, 연: 見出し語なし(놓아두다の備考欄に縮約形として), 小: なし

a. A: 저 친구는 어떡하죠? 「あの子どもはどうしましょう?」

B: 놔둬, 뛰고 싶어서 온 거 같은데. (마:207)

「放っておけ, 走りたくて来たようだから。」

『연세 한국어사전』では見出し語に놔두다はなく, 놓아두다の備考欄に縮約形としてあがっている。『朝鮮語辞典』も놔두다を見出し語としてあげていないが, 놔を見出し語としてあげ, 놓아의縮約形と記している。

#### (42) 땀 (때문)

辞書一 국: 때문의縮約形, 연: なし, 小: なし

a. 사람이 다쳤고, 너 땀에 방송이 세 토막 났어. (그:41)

「けが人が出たし, お前のせいで放送が3つに区切られたんだぞ。」

『표준국어대사전』でのみ記述があり, 今回の資料では(43a)に見るように땀에の形だけが見られた。指定詞を伴った땀이다の形が使用されるかは今後, 用例を検討する必要がある。

#### (43) 뭘 (무슨)

辞書一 국: 무슨の話しことば的な言い方, 연: なし, 小: なし

a. 그게 뭘 소리야? (신:95) 「それどういうこと?」

b. 이 자식이 뭘 소릴 하는 거야? (신:66) 「こいつ何言っているんだ?」

#### (44) 애 (이 아이), 개 (그 아이), 재 (저 아이)

辞書一 국, 연, 小: 이 아이, 그 아이, 저 아이の縮約形

a. 애들은 왜 이렇게 잘하니, 밥만 먹고 게임만 하나? (그:31)

「この子たち, 何でこんなに上手なの? ご飯だけ食べてゲームばかりしているのかな?」

b. 엄만 개 눈만 쳐다봐도 뭘 원하는지 알지? (마:196)

「母さんはあいつの目を見ただけで何を望んでいるか分かるでしょ?」

次の(44c),(44d)のように助詞の縮約も同時に現れ得る。

c. 엔 내 아들이고, 내 아들은 내가 가르쳐요. (마:190)

「この子はわたしの息子で, わたしの息子はわたしが教えます。」

- d. 나야 금메달이든 1등이든 목표가 있어서 그랬다 치고, 젠 뭐니까?  
 「わたしは金メダルであれ 1 等であれ, 目標があったからそうだったとしても, あの子は何ですか(何がありますか)。」(마:171)

(45) 얘기 (이야기)

辞書-국, 연, 小: 이야기의縮約形

- a. 학교랑은 정말 확실하게 얘기된 거죠? (마:169)

「学校とは本当にきちんと話がついているんですね?」

(44)의 애, 개, 재, (45)의 얘기는よく知られた話しことば形であるが, 書きことば形と比較した時に, どのような過程で話しことば形が作られるかを見いだしにくい。(44)の場合, (15)で見たように아이가애になるのは○が脱落して, 融合するという説明が可能であるが, その後, 이, 그, 저と애がどのようにして애, 개, 재になるのか不明である。얘기も同様である。そのような理由から今回は「その他」に分類した。

(46) 윈 (온)

辞書-국: →온, 연: なし, 윈종일은온종일의誤りとして記載, 小: なし

- a. 아저씨, 근데 비가 온다구요? 오늘 날씨 윈종일 쨍쨍 맑다고 했는데? (마:211)

「それにしてもおじさん, 雨が降るですって? 今日是一日中かんかん照りって言っていたけど?」

(47) 인마 (이눔아)

辞書-국: 이눔아의縮約形, 연: なし, 小: 이눔아의縮約形

- a. A: 먹을래? 「食べるか?」  
 B: 안 먹어요. 「食べません。」  
 A: 먹어, 인마. 간염 없어. (마:174)

「食べるよ, こいつ. 肝炎じゃないから。」

(48) 임마

辞書-국: →인마, 연: なし, 小: <이눔아

- a. 알았어, 임마! 「分かったよ, この野郎!」(신:41)

(49) 니 (너)

辞書一 국: 너의方言(경상) 연: i) 代名詞 네の話しことば ii) 너의縮約形, 네の話しことば 小: 네의口語体

a. 옛그제 너한테 갔을 때, 정말 니가 그리웠어. (그:46)

「おととい, おまえのところに行った時, 本当におまえが恋しかった。」

b. 형이 니 친구야? (마:164)

「兄さんがあなたの友達なの?」

c. 니들이 한두 번 헤어졌다 만났다 하나? (그:51)

「あんたたち何回も別れたり, より戻したりしているじゃない?」

d. 엄마는 너 고시 합격 안 해도 너들 건강하고 너하고 용하, 우에 있게 사는 것만으로도 참 좋다...! (신:45,46)

「母さんはあんたが司法試験に合格しなくても, あんたたちが健康で, おまえとヨンハが仲良く暮らすことだけで十分よ...!」

『연세 한국어사전』では니가, 니 ~の形以外で使用される니は, 非標準語であるとしている。また, 닐について『표준국어대사전』, 『朝鮮語辞典』には記載がないが, 『연세 한국어사전』には네の誤りとあり, 네を見ると너희の縮約形という記載がある。『연세 한국어사전』の記述通りに닐が네の誤りであり, 네가너희の縮約形であれば, (49d)の下線部を네들에置き換えることが可能にならなければならない。この点についてはより詳しい考察が必要である。

以上, 辞書に記載のある話しことば形を見てきた。母音の脱落では이の脱落が最も多かった。そのうち, 재미있다のような用言の縮約形が見出し語として記載されている点は注目に値する。また『朝鮮語辞典』は, 어디 있다の縮約形として어딴-を見出し語にあげていたが, その理由は어딴-の形がよく使用されることを反映してのことだろうか。

드럽다, 기집애, 이쁘다については『연세 한국어사전』ではそれぞれ더럽다, 계집애, 예쁘다の誤りとしているのに対し, 他の辞書では記述がなかったり, 書きことば形と同じものと見なしていることが確認できた。

### 3.2 辞書に記載がないもの

次に辞書に記載されていないものを見ていく。分類に関して, 3.1と同じ基準を用いたが, 「ㅇが脱落し, 融合したもの」, 「하の脱落によるもの」, 「終声入の脱落によるもの」, 「母音の融合によるもの」は今回の資料では形態が見られなかった。

母音の脱落によるもの

(50) 녀 (너무)

a. ... 널 심하지 않니? (그:32) 「ひどすぎるわよね?」

子音が脱落し, 融合したもの

(51) 섬 (시험)

a. 이번 설 떨어지면 당장 뺨다구! (신:18)

「今回の試験に落ちたらすぐに(部屋を)出るって!」

母音の変化によるもの

• ㅏ → ㅓ

(52) 맨들다 (만들다)

a. 없는 집에 태어나 장남 노릇 찍지게 해 준 것도 고맙고, 지 형  
판검사 한번 맨들어 보겠다고 고생 고생하는 것도 고맙고... (신:46)

「貧しい家に生まれて, 長男の役割を大変な思いをして果たしてくれたこと  
もありがたいし, 兄さんを判事, 検事にさせると言って, 苦勞してい  
ることもありがたいし...」

(53) 애끼다 (아끼다)

a. 형이 은질 얼마나 애졌는데... (신:81)

「兄さんがウンジのことをどれだけ大事にしてきたか...」

• ㅓ → ㅕ

(54) 멕이다 (먹이다)

a. 쇠고기라도 덩석덩석 멕였으면 좋으련만! (신:96)

「牛肉でもたっぷり食べさせてあげられたらいいのに!」

(55) 멕히다 (먹히다)

a. 밤새고 나면 설령탕 곰탕도 안 멕히잖아요. (신:27)

「徹夜明けはソルロンタンもコムタンも喉を通らないじゃないですか。」

• ㅓ → ㅕ

(56) 아부지 (아버지), 할아부지 (할아버지)

a. 돌아가시기 전에 아부지가 사 주신 마지막 선물이잖아! (신:20)

「亡くなる前に父さんが買ってくれた最後のプレゼントじゃないか!」

b. 할아부지! 다 만드셨어요? (신:41)

「おじいさん, 作り終わりましたか?」

• ㅓ → ㅕ

(57) 승질 (성질)



a. 아, 자식, 승질은... (신:94) 「ったく, 性格が...」

(58) 어떡하다 (어떡하다)

a. 그렇게 심심하게 물어보시면 어떡해요? (신:58)

「そんなふうに興味なさそうにお尋ねになってどうするんですか。」

(59) 으떻게 (어떻게)

a. 황보 회장 영장 으떻게 됐어? (신:69)

「ファンボ会長の令状はどうなった?」

(60) 으이구 (어이구)

a. (예뻐서 은지의 볼을 꼬집으며) 으이구. (신:65)

(かわいくてウンジの頬をつねりながら) 「こいつ。」

(61) 은제 (언제)

a. 아니, 은제 이걸 다 챙겨 왔어? (신:61)

「え, いつこれを準備してきたんだ?」

(62) 으찌나 (어찌나)

a. 싹싹하고 명랑하고, 으찌나 불임성<sup>6)</sup> 좋은지 내가 중신이라도 서고 싶었는데. (신:85)

「氣さくで朗らかで, どれほど愛嬌があるのか, 俺が仲人でもやりたかったのに。」

(63) 을마 (얼마)

a. A: 3시 발표야, 그때까지 우두커니 있음 뭐해?

「発表は3時だ, それまでぼけっとしていてどうする?」

B: (A의 목소리로) 내가 일당이 을만테? (신:28)

「(Aの声を真似して)俺の日当が幾らだと思っている?」

(64) 증말 (정말)

a. 형사님, 증말 잘못 짚었어, 억지 좀 그만 쓰시구. (신:81)

「刑事さん, 本当に見当外れだよ, 我を通すのはこれぐらいにして。」

· ㅋ→꺀

(65) 벨 (별)

a. 벨 생썸을 다 하고 자빠졌네. (신:18)

「くだらないことをしているなあ。」

(66) 메느님 (며느님)

a. 이쁘게 하고 계셔야 아드님 메느님도 한 번이라도 더 뵈러 오죠.

「きれいにしていれば息子さんもお嫁さんも一回でも多く会いにきますからね。」 (신:78)

『연세 한국어사전』には며느님의記載がない。

• ㅏ→ㅓ

(67) 대루 (대로)

a. 어떤 인간이 살던 방이야? 뭐 하나 제대루 딱딱 맞는 게 없네. (신:48)

「どんな人が住んでいた部屋なんだ?ひとつもまともなものがないな。」

b. 조사 끝나는 대루 바루 영장 신청할 거다! (신:99)

「調査が終わり次第, すぐに令状を申請する!」

(68) 이래두 (이래도)

a. 이래두 돼, 이래도 돼, 당신들? (신:98)

「こんなことしてもいいの, こんなことしてもいいの, あんたたち?」

(69) 하두 (하도)

a. 도망치는 품이 하두 수상해서 올라가 봤다는 거 아냐? (신:63)

「逃げて行く姿があまりにも怪しいから, 上がってみたんじゃないか?」

その他

(70) 간만에 (오래간만에)

a. 형 간만에 쉬는데 정말 죄송합니다. (그:18)

「先輩, 久しぶりに休んでいるのに本当にすみません。」

(71) 그지/그치 (그렇지), 그쵸 (그렇죠), 그치만 (그렇지만)

a. 이번엔 우리 좀 오래 헤어져 있었다, 그지? (그:32)

「今回わたしたち, ずいぶん長く別れた状態でいたわ, そうでしょ?」

b. 여보? 어떡하지? 그럼 나 정말 지옥 갈 거야, 그치? (마:203)

「あなた, どうしよう?そうだったら, わたし本当に地獄に行くわ, そうでしょ?」

c. 마라톤 품 나죠? 그쵸? (마:170)

「マラソンはかっこいいでしょう?そうでしょう?」

d. 엄만 개 눈만 쳐다봐도 뭘 원하는지 알지?... 그치만 난! (마:196)

「母さんはあいつの目を見ただけで何を望んでいるか分かるでしょ?だけど俺は!」

(72) 냅두다 (내버려두다)

- a. 아, 냅뉘, 냅뉘. 안 먹어, 안 먹어, 안 먹는다구! (신:97)

「ああ、放っておいて、放っておいて。食べない、食べない、食べないってば!」

(73) 빠지다 (빼치다)

- a. 어머니, 용하 이려다 빠져요, 용하 주세요, 용하! (신:96)

「母さん、こうしているとヨンハがいじけるよ。ヨンハにあげて、ヨンハに!」

(74) 얹마 (야 인마)

- a. (초원에게 걸어가며) 얹마, 물 좀 마시자. (마:174)

「(チョウオンに近づいて行って)おい、ちょっと水くれ。」

(75) 인석 (이 녀석)

- a. (웃으며) 인석이 날 닮았어! (신:26)

「(笑いながら)こいつは俺に似ているんだ!」

(76) 함 (한 번)

- a. 뛰는 게 좋다구요? 함 뛰어 보시구 그런 말씀하시죠. (마:171)

「走るのが好きですって? 一度走ってみてからそんなことを仰ってください。」

以上、辞書に記載のない形を見てきた。母音変化のうちㅏがㅑになるものが最も多かったが、単語によっては方言である可能性もある。また、그래두は辞書に記載されていたが이래두はなく、대로가대루になるものは、로→루からの類推が可能なためか記載がないなど、単語によってばらつきがある。

#### 4. おわりに

本稿では、話しことば形の規則性を探る一つの作業として、シナリオ資料を用い、そこに現れた話しことば形が辞書に記載されているかどうかを観察し、規則ごとに分類した。規則が同じであっても辞書に記載されていないものがあり、何が基準となるのかを今後より詳しく観察しなければならない。

先に述べたとおり、本稿では書きことば形と異なる形を話しことば形と見なしてよいのかという問題を残したまま分類を行った。そのため、縮約形もすべて話しことば形と見なして論を進めている。縮約形をすべて話しことば形と見なしてよいかは検討しなければならない。今後、語尾の変化による話しことば形も対象とし、全体的な規則性を見出す作業を行いたいと考える。

## 《謝辭》

本稿を作成するにあたり，韓国語母語話者として上智大学の金アラン先生にご協力頂きました。ここに記して感謝申し上げます。

## 《註》

- 1) 菅野(2007)は朝鮮語の格について論じるなかで書きことば形，話しことば形についても詳しく言及している。例えば-하고と-랑/-이랑について前者を「甘え」，後者を「非甘え」と分類している。また，話しことば形-하고には，-하구，-허구의形もあり得ることを記している。
- 2) 권재일(2004:4)は次のように述べている。대화 자료란 '순수하게 말해진 것을 전사한 것'을 말한다. 자연스러운 일상 대화가 바로 이에 속한다. 이를 '순수-구어 자료'라 할 수 있다. 이에 대해 '말해지기 위해 쓰인' 자료들이 있다. 연극, 영화, 방송드라마의 대본이 이에 속한다. 이들은 순수-구어 자료와는 엄격히 차별되기 때문에 '준-구어 자료'라 할 수 있다.上記で述べられている通り，シナリオが純粋な話しことば資料でないことを理解した上で使用している。
- 3) 例文の出典を示す際『그들이 사는 세상』は그，『마라톤』は마，『신의 저울』は신と表記し，略記の横にはその例が現れたページ数を記す。
- 4) 표준국어대사전での→は，표준어 뜻풀이 참고となっている。
- 5) 原文では끼대と表記してある。
- 6) 原文では부침성と表記してある。

## 《参考文献》

- 菅野裕臣(2007)「朝鮮語の格」p.125-p.137『韓国語学年報』第3号 神田外語大学韓国語学会
- 菅野裕臣著 浜之上幸・權容環改訂(2007)『朝鮮語の入門 改訂版』白水社
- 油谷幸利 他(1993)『朝鮮語辞典』小学館
- 권재일(2004)『구어 한국어의 의향법 실현방법』서울대학교출판부
- 노대규(1996)『한국어의 입말과 글말』국학자료원
- 박석준·남길임·서상규(2005)「대학생 구어 말뭉치에서의 조사·어미의 분포와 사용 양상」p.81-p.110 서상규·구현정 공편『한국어 구어 연구(2) -대학생 대화 말뭉치를 중심으로-』한국문화사
- 연세대학교 언어정보개발연구원 편(1998)『연세 한국어사전』두산동아
- 임소영·서상규(2005)「대학생 구어 어휘연구」p.44-p.80 서상규·구현정 공편『한국어 구어 연구(2) -대학생 대화 말뭉치를 중심으로-』한국문화사

## 《資料》

- 노희경(2009)「1부 적(敵)」p.15-p.58『그들이 사는 세상 1』북로그컴퍼니
- 유현미(2009)「신의 저울」p.11-p.139 한국방송작가협회 편『2008년 제21회 한국방송작가상 수상작품집』시나리오 친구들
- 정윤철, 송예진, 윤진호(2006)「마라톤」p.139-p.219 영화진흥위원회 엮음『제23권 2005 한국 시나리오 선집 (상)』커뮤니케이션북스

付録 辞書に記載のある形態一覧

母音の脱落によるもの

	국	연	朝
(1) 널	내일의縮約形	내일의縮約形	내일의縮約形
(2) 어났다, 저깃다	なし	なし	어났- 어디 있- の縮約形 저깃다 なし
(3) 재밌다	재미있다の縮約形	なし	なし
(4) 제일	제일의縮約形	제일의縮約形	제일의縮約形
(5) 권	주인의縮約形	주인의縮約形	주인의縮約形
(6) 울	우리의縮約形	우리의縮約形	우리의縮約形
(7) 답	다음の縮約形	다음の縮約形	다음の縮約形
(8) 맘	마음の縮約形	마음の縮約形	마음の縮約形
(9) 침	처음の縮約形	처음の縮約形 名詞：主に話し ことばで	처음の縮約形
(10) 싸	싸움の縮約形	싸움の縮約形	싸움の縮約形
(11) 외다	외우다の縮約形	외우다の縮約形	외우다の縮約形
(12) 들오다	들어오다の縮約形	들어오다の縮約形	들어오다の縮約形

ㅇが脱落し，融合したもの

(13) 뒤	두어の縮約形	なし	두어の縮約形
(14) 봐다	보이다の縮約形	보이다の縮約形	보이다の縮約形
(15) 애	아이の縮約形	아이の縮約形	아이の縮約形

子音が脱落し，融合したもの

(16) 외려	오히려の縮約形	見出し語になし (오히려の備考欄に 縮約形として)	오히려の縮約形
---------	---------	---------------------------------	---------

하の脱落によるもの

(17) 왜냐면	なし	왜냐하면の縮約形	왜냐(하)면として 記載
----------	----	----------	-----------------

終声入の脱落によるもの

(18) 무어	무어=무엇	무엇の縮約形	무엇の縮約形
---------	-------	--------	--------

뒤	무어의縮約形	무어의縮約形	무어의縮約形
(19) 거	依存名詞：것의口語的 な言い方 代名詞：거기의口語的 な言い方 代名詞：그것의縮約形	依存名詞：것의縮約形 代名詞：거기의縮約形 代名詞：그것의縮約形	依存名詞：것의縮約形 代名詞：거기의縮約形 代名詞：그것의縮約形
(20) 이거	이것의口語的な言い方	이것의縮約形	이것의縮約形
그거	그것의口語的な言い方	話しことばで 그것 の意味	그것의縮約形
저거	저것의口語的な言い方	저것의縮約形	저것의縮約形

母音の変化によるもの

(21) 댄날	= 만날	= 날마다 類義語として 매일	俗語として記載あり, 類義語として 만날
(22) 개기다	→ 개개다	개개다, 개기다 いずれもなし	개개다あり 개기다なし
(23) 에미	→ 어미	類義語として어미	= 어미
(24) 드립다	なし	더립다の誤り	なし
(25) 지	→ 제	i) 代名詞：若干 俗っぽい話しこと ばで자기の意味 ii) 제の話しことば	= 제
(26) 기집애	なし	계집애の誤り	なし
(27) 이쁘다	→ 예쁘다	예쁘다の誤り	= 예쁘다
(28) 그래두 (그래도)	なし	なし	두の欄に그래두 (그래도의口語体)
(29) 그리구 (그리고)	なし	なし	= 그리고
(30) -두(-도)	→ 도	助詞도의話しことば	도의口語体
(31) -루/-으루 (-로/-으로)	なし	なし	로의口語体
(32) 바루(바로)	→ 바로	바로の誤り	= 바로
(33) -라두(-라도)	なし	なし	두の欄に-라두 (-라도의口語体)
(34) 방구	方言	방귀の誤り	= 방귀

(35) 부비다	→비비다	비비다의誤り	なし
----------	------	--------	----

母音の融合によるもの

(36) 아냐(아니야)	感嘆詞아니야の縮約形	感嘆詞아니야の縮約形	i)感嘆詞아니야の縮約形 ii)아니다の略待아니야の縮約形
(37) 아뇨(아니요)	아니요の縮約形	なし	아니요の縮約形

その他

(38) 그깃	그까깃の縮約形	그까깃の縮約形	그까깃の縮約形
(39) 그딴	그따위의話しことば的な言い方	なし	なし
(40) 관두다	고만두다の縮約形	그만두다の縮約形	고만두다の縮約形
(41) 놔두다	놓아두다の縮約形	見出し語になし(놓아두다の備考欄に縮約形として)	なし(ただし, 놔는 놓아의縮約形として記載)
(42) 뻔	때문의縮約形	なし	なし
(43) 똘	무슨の話しことば的な言い方	なし	なし
(44) 애,개,재	이 아이, 그 아이, 저 아이の縮約形	이 아이, 그 아이, 저 아이の縮約形	이 아이, 그 아이, 저 아이の縮約形
(45) 얘기	이야기의縮約形	이야기의縮約形	이야기의縮約形
(46) 윈	→온	見出し語に윈なし 윈종일은 온종일의誤り	なし
(47) 인마	이놈아의縮約形	なし	이놈아의縮約形
(48) 임마	→인마	なし	<이놈아
(49) 니	너の方言(경상)	i) 代名詞 네の話しことば ii) 너의の縮約形, 네の話しことば	네の口語体

## 조선어의 입말 형태에 관한 예비 조사(1)

타이라 카오리  
간다외어대학

본 연구는 글말 형식과 입말 형식을 비교하여 입말 형식이 형성될 때 어떠한 규칙성이 나타나는지를 고찰하기 위한 예비 조사이다. 이번 조사에서는 우선 시나리오 자료를 사용해서 글말체와 다른 형태로 나타난 어휘들을 추출하여 그 형태가 사전에 등록되어 있는지를 확인하였다. 사용한 사전은 『표준국어대사전(전자판)』, 『연세 한국어사전』, 『조선어사전』이다. 그 다음, 추출한 입말 형태를 글말 형태와 비교하여 규칙에 따라 「모음이 탈락한 것」, 「‘ㅇ’이 탈락해서 융합된 것」, 「자음 ‘ㅎ’이 탈락해서 융합된 것」, 「‘하’가 탈락한 것」, 「종성 ‘ㅅ’이 탈락한 것」, 「모음이 변화한 것」, 「모음이 융합된 것」으로 분류하였다. 조사 결과, 같은 단어라 하더라도 사전의 기재 여부에 차이가 보였고, 어떤 사전에는 표준어로 기재되어 있는가 하면 다른 사전에는 잘못으로 등록되어 있는 경우도 있었다. 본 연구에서는 어미가 변하여 입말 형식이 된 것은 고찰 대상에서 제외하였는데 이에 관해서는 논고를 달리하여 보다 넓은 관점에서 고찰하도록 하겠다.